

令和8年度 感染症危機管理リーダーシップ研修（長期）



IDCL（感染症危機管理リーダーシップ研修）は、次なる感染症危機に備え、公衆衛生行政、医療提供体制、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見や経験を有する多様な職種の感染症専門人材を対象とした研修です。地域における将来の感染症危機への対応においてリーダーシップを発揮できるよう、感染症危機管理に必要な多様かつ分野横断的な知識やスキルの修得、維持・向上を図ることを目的としています。今回は主に4～6月の活動をご紹介します。

4
22

開講式

JIHSにて開講式が執り行われました。式には武井貞治理事、俣野哲朗理事、四柳宏理事をはじめ、多くの機構幹部が列席し、期待と激励の言葉を贈りました。今年度は神奈川県、埼玉県、滋賀県から選出された3名を研修生として迎え、1年間にわたるプログラムが始動しました。



後列左から：齋藤智也センター長、杉浦亙センター長、山田康秀部長、高橋未明次長、今井健二郎課長、近藤徹参事
前列左から：厚生労働省 五十嵐美徳課長補佐、四柳宏理事、研修生の中井綾さん、石田若葉さん、田上健吾さん、武井理事、俣野理事

..... <<<各受け入れ機関において実践研修（OJT）がスタート!>>>

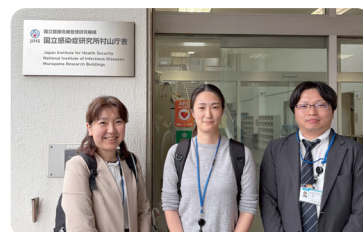
4
27

村山庁舎

新型インフルエンザの検査体制やキャンパスの概要、バイオセーフティ、一種病原体に関する専門的な講義を受けました。さらに、BSL4 実験室などの施設見学も実施され、最新の感染症対策の現場を肌で学ぶ、充実した滑り出しとなりました。



三木祥治主任研究員から BSL4（バイオセーフティレベル4）実験室の説明を受ける研修生



長期研修生ら（村山庁舎の入口にて）

5
8

ハンセン病研究センター

阿戸学センター長と森修一氏による講義および資料館見学の研修を実施しました。隔離政策下の食糧難や断種といった過酷な歴史をたどることで、公衆衛生における人権尊重の重要性を再認識しました。歴史と医学の両面から、専門職としての高い倫理観と実学的な視点を養う、有意義な研修となりました。



（次頁へ続く）

5
20

結核研究所

加藤誠也所長をはじめ、各研究室や国際協力の第一線で活躍される研究者の方々から活動状況を伺いました。所内視察では、図書館に保管される貴重な文献にも触れ、日本の結核対策の歩みとその奥深い歴史について理解を深めました。

5
25

薬剤耐性研究センター

大西真医師、他4名の講師から、センターが担うサーベイランスや耐性菌バンクの運用、ASIARS-Net※を通じた国際的な連携活動についての講義を受けました。さらに施設見学も交え、日本における薬剤耐性菌に対する取り組みへの見識を広げました。



※ ASIAn Antimicrobial Resistance Surveillance Network の略。アウトブレイクの検知及び院内感染対策の効果に関するデータを全国の医療施設から収集し、任意の国が利用できるように英語化した Web システムのこと。

6
2

統括庁 OJT

講師：吉村健佑医師（千葉大学病院 次世代医療構想センター長 特任教授）

テーマ：「感染症危機における「行動する」パブリックヘルス - 県庁の病床調整・空港検疫・ワクチン啓発の現場から -」

内閣感染症危機管理統括庁の研修へ参加しました。研修では、千葉大学病院の吉村健佑医師による講話が行われ、千葉県における新型コロナウイルス流行時の対応を振り返りました。公衆衛生の本質は「課題を分析すること」ではなく「社会課題の解決に向けて行動すること」にあるとお話いただきました。また、次の感染症危機に備えるためには、平時から人材育成、データ活用、訓練、物資備蓄、関係機関の連携体制を整備し、公衆衛生専門職が現場で主体的に行動することが重要であるご講義いただきました。



吉村健佑医師（写真左から2番目）と IDCL 長期生

6
26

机上演習

JIHS 内で机上演習が開催され、IDCL※¹ 長期研修生、FETP※²、CMTP※³、IDES※⁴、京都大学ヘルスセキュリティセンター、IDCL 修了生が参加しました。感染症危機を想定したシナリオをもとにディスカッションを行い、感染症危機時における組織的な動きや対応、危機管理体制の構築・維持、そしてその重要性等を学びました。

※1 感染症危機管理リーダーシップ研修 ※2 実地疫学専門家育成コース
※3 災害危機管理専門家育成コース ※4 感染症危機管理専門家養成プログラム



浦西由美先生
（徳島県美波保健所
副所長）



演習の様子

6
22
7
1.2

外部研修

合計3日間にわたり、千葉県衛生研究所で「感染症発生時における疫学調査等に係る職員研修」が行われました。研修では、地方自治体における同研究所の役割や業務内容の説明に始まり、施設の見学や業務の法的根拠についての講義などが行われました。その特性を十分に理解してからワークショップに参加したことで、感染症危機発生時における同研究所の役割や行動を実践的に学ぶことができました。



左から千葉県衛生研究所感染症学研究室の門倉圭佑様、折目郁乃様、石田篤史様、右3名は IDCL 長期生